

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成27年2月17日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の暮らしの中で、入居者の皆さんが、「由紀の里での暮らしが穏やかで心地良い」と感じていただけるような暮らし、日常を大切にしながら、一年を通じて季節を感じる事が出来る行事や「懐かしい」「楽しい」と感じていただけるアクティビティ、非日常の提供による暮らしの活性化に力を入れています。その為にも、スタッフの個性、アイデアや気付きを積極的に取り入れ、自主性を高めつつ、チームとして入居者の皆さんを支えることが、より良い暮らしの提供に繋がるものと考えています。実際の暮らしの中では、入居者の皆さんの出来ることや分かることに着目、出来ない事はさりげなくフォローし、周辺症状に対するケアも、その方に応じた対応に心掛けるなど「傾聴、共感、受け入れる」を基本姿勢としています。社会福祉法人として培ったこれまでの経験と専門性、人と人との関係性を大事にしなが、入居者、ご家族、そしてこの地域で必要とされる事業所となれるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養老人ホームに併設されたグループホームでは、開設時から地域との関係構築への取り組みや、“今”出来る事をその時に支援したいと志向を高くして臨んでいる。浴衣での写真撮影やはっぴを着たいとの希望には手作りする等の支援は回想法及び気分向上へと繋げ、家族の情報により障子紙での白無垢によるファッションショー等高齢化・重度化する中で日常生活に加え、ひと手間かけたこのホームならではのアクティビティに取り組んでいる。入居時よりの職員の寄り添いや傾聴・共感・受容しながらの当たり前前の生活支援が笑顔を引き出し、穏やかに過ごされるほどに改善させる等、職員の専門性を発揮している事も特筆したい。運営推進会議の中に“かたろう会”と命名して家族中心の会議の組み入れや家族も読み聞かせやお茶会での点前披露や、外出行事へも同行される等家族参加型のホームである。普通の生活線上に最期があるとして、本人が安心される場所での入居者からも励まされながら、終末期を支援される等、90歳代が多い現状を的確に捉え、所長を中心にチームとして確立し、基本理念で謳う“温かみ溢れる、家族と地域に身近な里”が形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフで作り上げた「家庭的な日常、笑顔のふれあい、自分らしさを尊重、地域交流を大切に」を基本とした理念を、より暮らしに反映できるように日々取り組んでいる。	家庭的な日常・笑顔のふれあい・自分らしさを尊重・地域交流を大切に支援する事を基本として目指す里を4項目に込め、仕事の中で道のるべ・方向性を振り返るケア規範として各項目を具現化して示している。毎月の会議も理念を想起させながらで理念を検討し、今年度も継続している。“家族と地域に身近な里”として地区の敬老会等に参加しながら啓発に努める等、更に地域の中に深まりを見せている。入居者の和やかな生活ぶりや職員の笑顔での寄り添いのケアに理念が浸透していることが表出し、温かみのあるホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、地域のボランティア慰問による交流をとおして関係づくりに努めている。	日々の散歩や神社参拝時等近隣住民や宮司・警察官等との歓談や、地区の敬老会や環境整備(溝掃除等)、どんどやには準備段階から関わる等地域の一員として交流している。また、ボランティア(大正琴等)との交流の他、子ども神輿やクリスマス会には阿蘇少年少女合唱団の訪問等様々な機会を通じ交流に努めている。	家族や民生委員にはホーム便りを通じ、理念や方針等が発信されている。更に地域へのアピールをしていきたいと意欲的であり、近隣住民への啓発の一環として回覧板の活用を検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報により、取組みや活動、役割の説明を行うことや実習生の受け入れにより、認知症ケアの実践や考え方を通じて人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現況や活動(季節の営み、行事など)報告を中心に意見交換を行っている。家族、入居者参加型の会議も開催し、入居者、家族、事業所間の交流の場としても役立っている。	今年度まずはこの会議の意義や昨年度の実績を説明し、奇数月に開催することを決定している。また、年に1回は家族を対象として気楽に誰でも参加できるように“かたろう会”と命名し、外部評価結果報告や年間をスライドを通じた報告や、昨年度の課題である食への取組みを見てもらう等工夫している。また、嚥下障害・防火管理等議案を基にした活発な意見交換や、施設の役割を発信する機会として生かされ、委員の質問に行政の立場での説明など双方向性のある会議である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者に対する各制度担当者への相談、連絡をとおして情報交換や連携が図れるように心がけている。	運営推進会議への参加や各申請に出向き意見交換を行う等顔の見える関係を作っている。介護保険更新時の情報発信や市や社協の開催する様々な研修に参加している。入居に際し地域包括支援センターとの情報交換を行う等、入居者と関わる各関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より事業所の行動指針に明記し、拘束となるような行為は行っておらず、経験の浅い職員においても勉強会等をとおして理解に努めている。	行動指針の中で身体的・心理的な虐待や拘束等を行わないことを謳い、勉強会を開催しており、全職員が拘束の弊害を正しく認識している。スピーチロックや関わりのスピード等職員同士が注意喚起し、車椅子も移動手段として捉えている。入居者の動きには目的があるとして好きな場所で過ごしてもらったり、外に出たいとの思いには一緒に出かける等自由な束縛の無い生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に勉強会の実施と行動指針に明記し事業所内に掲示している。入居者が不快に感じる態度や言葉かけなどが無いように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会参加や勉強会においても成年後見制度について取り上げ学んでいる。成年後見制度利用者も居ることで、より制度の主旨や必要性の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に事業所の体制など説明を行っており、契約後も疑問、相談など受け付ける機会を設けている。介護保険改定時等には、文章による説明や要望に応じて説明会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見が言い易い対応に心がけ、意見や要望は、会議での報告や申し送りノートで周知し改善できることについては早めの対応に心掛けている。アンケートや意見箱の設置、重要事項説明書に行政機関の苦情受付機関、苦情相談窓口や苦情解決責任者、第三者委員を明記している。	入居者毎の担当職員の固定化により、馴染みの関係が築かれ、日常の関わりの中で要望等を引き出し、時には家族に代言しながら希望を実現させている。家族には意見箱や訪問時や電話により状況を報告し、要望等を収集しており、家族も気軽に要望や相談等直接申し出られており、苦情相談簿に記載し、発生要因を探り、家族に説明することとしている。プラン作成前にはアンケートによりプランへの意向と改善して欲しい事を聞き取りしたり、運営推進会議も問題提起の場として生かされている。契約時にホーム内外の苦情相談窓口及び担当者・第三者委員の存在を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している会議の中で業務改善について些細なことでも意見を出し合い、改善策を話し合っている。	所長を中心として職員同士の風通しの良い関係が作られており、日常の業務の些細なことから話し合いながら改善する等、何事かが生じると全員で検討している。また、毎月の会議の中で業務改善・日課変更・ケース記録の書き方変更等合議しており、外部評価の課題も全員で検討している。職員の意見や提案できる環境が働く意欲として生かされていることは離職が無い事に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	スタッフ個々の経験や働き方に応じて役割を分担し、業務に活かせるよう配慮している。担当を固定化することで安定した業務が継続でき、自信や向上心につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や知識などを考慮し、法人内外研修への参加支援をおこない、スキルアップやケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会や意見交換会への参加と法人内のグループホームとの相互訪問や食事会、意見交換など日常的に交流、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に心身の状態や不安などを聞きながら、把握することでお互いに安心できる人間関係、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事業所の様子や雰囲気を見てもらったり、初期面談の中で不安や要望を聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことで関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や入居待ちの方々の支援として、これまでの生活歴やサービス利用状況を踏まえて、入居もしくは他のサービス利用につなげるように制度やサービス種類などの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活や暮らしの中での経験を教えていただきながら、得意なことを暮らしに活かし、ケアを受ける側のみにならないような関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から、入居者の希望や状況を手紙や電話連絡をすることで知ってもらうこと、そして家族参加型の行事などを企画、参加していただくことで協力関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族協力のもと行きつけの美容室に行かれたり、知人の面会があったときにはゆっくりと過ごせるよう対応している。電話や手紙などの支援も行っている。	職員はアセスメントで得た情報以外に、“今”出来る事をその時に支援したいと、普段の会話の中から大切にされてきたことを把握し実現されている。入居前から月命日に家族と食事会をされていた入居者は現在も継続され、葬儀や法要参列やワラビ狩りに体調の良い日に実現させている。正月には自宅で家族と過ごされる等馴染みの人・場所の関係が途切れないよう支援している。3月3日は女性の日としてお化粧をされ、家族と職員とが野点に取り組んだり、浴衣を着て全員で写真を撮る等このホームならではの“家族と共に”支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしを穏やかに過ごしていただく為にも、入居者同士の関わりは大切であり、活動などを通じた関わりやユニット間の交流による関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居および入院になっても、新たな環境での生活が円滑に行くように連携し、その後の状態や意向に応じて、法人全体で関わり継続的な支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されてからも生活習慣などこれまでの暮らしを参考に支援している。困難な場合は生活歴などの情報や行動、表情など日頃から観察し、思いや意向を感じ取れる支援に努めている。	職員は入居者と良く会話を交わし、「家にいた時と同じような生活をしたい」等聞き取りした事案を家族に代弁しながら思いを実現させている。普通の当り前の生活が穏やかな生活に繋がる等認知症進行防止として生かされ、「はっぴを着たい」とする思いには手作りする等職員の特技や工夫が生かされている。意思疎通・発語困難な状況には生活歴や行動・言動の他、入居者の言葉の裏にある真意を探りながら本人本位になる様検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス事業所や医療機関からの情報をふまえて、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種日誌や申し送りを活用し状態把握の共有化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向聞き取りはもちろんのこと、ご家族へアンケート送付にて意向を伺い計画書に反映させている。また、ケア会議において職員の意見の反映、情報の共有、把握に努めている。	プラン作成に伴い、家族に事前に担当者会議への出欠と共に事前にプランへの要望や意向を聞き取りした上で、所長・ケアマネジャー・担当職員とでまずは話し合い、仮のプランをケア会議の中で検討し、正式なプランを策定している。半年に1回のモニタリングで達成状況を見極めたり、状況変化時の見直し等本人・家族の思いと職員の気づきが反映された個別性のあるプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の書き方についての勉強会を行い記録の重要性などの把握に努めた。サービス計画書にもとづいて、日々の生活の様子なども記録し計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種制度の申請や手続き、後見人との連携。入院の際には身の回りの必要物品準備、入院時の洗濯代行や面会を行っている。特に家族が遠方の場合など柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元保育園、阿蘇市の合唱団などの訪問や地区の敬老会やどんどやに参加し、地域住民との交流となっている。地域のボランティア団体の慰問なども活発になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一定の期間毎に訪問診療を受けている。必要があれば、主治医へ連絡し指示受けもできる。病状に応じて他医療機関や各専門医の紹介や受診も可能である。	入居時に協力医の存在を説明している。往診や緊急体制の構築は入居者のみならず職員の安心感につながり、状況によっては他科受診を家族と協力し合い、家族の都合によってはホームが支援し状態把握に努めている。職員はバイタルチェックや様子を観察し、いつもの違いを早期に気づき、早めの受診に取り組んでいる。又、訪問歯科を取り入れ口腔ケアの指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や入浴時の身体確認、状態観察など日頃関わっているスタッフの気づきを記録し、看護師に報告を行うことで、迅速な対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、入院中は定期的に事業所スタッフが面会を行ったり、電話連絡などにより病状や状況を得るようにしている。協力医療機関においては、定期的な会議の際に事前に入居者状況を伝えるなど、情報の共有、協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、家族から終末期の医療、介護の支援について、事前指定書を用いて意向を確認している。ご家族と話し合いをしながら関係医療機関、併設施設など法人全体で支援する体制を築いている。	入居時に“重度化時の対応に係る指針”のもと、医療連携体制や看取りについて説明し、家族の希望やホームの体制への同意を交わしている。又、事前指定書の書式を見直し、緊急時を含めた家族の意向を確認している。医療や家族の協力によりホームでの終末期を支援した事例がある。生活の延長として終末期があると捉え、最期まで本人の希望(わらび狩りに行きたい・神社にお参りしたい)に応えたいと体調を見ながら支援し、家族の面会し、精神的ケアの協力される等尊厳ある日々が、本人が希望されたようにホームで最終を過ごされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のキャリアにばらつきがあり、実際にその場にあたる場面も少ないが、緊急時対応の訓練を今後も行い、実践力を身につけるように努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災、避難、非常食調理訓練の実施や運営推進会議などでグループホームの特性や入居者の状況など理解してもらっている。災害時に地域の要援護者受け入れなど相互の協力関係を結んでいる。	消防署立会いと自主訓練の年2回の火災避難訓練を実施し、機器設備の定期点検や日常のチェックでまずは火を出さない事を職員間で意識付け、防火扉の正常な作動の為周囲に物を置かない事を申し合わせている。運営推進会議で活発な意見交換や、消防団からホーム内の視察を受け、災害時における市や区との協定を結び福祉避難所として地域への貢献に努めている。又、法人との協力・連携体制が図られ、備蓄については非常食訓練を行い、アルファ米等を試食している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴など背景を把握した上で個々を尊重した声かけや、人として尊重し何事にも希望を伺ったり了承を得ることを基本としている。	これまでの生活歴に合わせたり、本人に分かり易い呼称や敬語で話しかけ、入居者の身だしなみについても心を配っている。入室時のノックや声かけ、排泄時のさり気ない誘導や入浴時の同性介助の希望に応え、言葉かけが気になる時はお互いに注意し合える環境作りに努めている。又、プライバシーの勉強会を実施し、個人情報取り扱いや守秘義務の遵守に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な対応を心がけ、思いや希望を表しやすいように支援している。各担当を配置することで、細かく把握ができ個別に対応する場面も多い。又、日常生活の中で些細なことでも自己決定する機会を多く設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えつつも、その日の体調や様子に合わせてながら、入居者の方のペースで過ごしていただけるように、希望なども取り入れながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方の要望もあり、おしゃれをして記念撮影を行い大変喜ばれている。行きつけの美容室がある方は、ご家族協力のもと継続し、地域の美容室より出張散髪もあり、毎月楽しみにされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、食事内容や味付け、食事量など検討している。郷土料理をメニューに加えたり、誕生会では本人希望の献立を提供し喜んでいただけている。要望により料理作りを計画し、昔を思い出して調理する機会をつくり、食事の準備や食器洗いなどは、役割分担し、生きがいを持って取り組んでいただけるよう支援している。	ホームでは年2回の嗜好調査により、入居者の希望を栄養課に届けたり、個々の状態に合わせた食事を検討し、昼食にはパンや個々に合わせた形態やカロリー食等を利用している。ホームではご飯を炊飯し、入居者も茶碗洗いなどに関わり、其々の茶碗や湯のみ等を使用しながら職員と一緒に食事時間を楽しんでいる。入居者ととにだご汁作りやたこ焼きパーティ・高菜漬け・梅干し作り等得意分野の発揮や役割分担しながら楽しいときを支援し、おはぎ作りの際は仏様に供えられる方もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の体調や希望などを取り入れながら食事形態や量など配慮している。食事摂取量が少ない方はハーフ食や嗜好品の提供などを検討し摂取量の確保に努めている。水分摂取量が少ない方には、ご家族にも相談し、好まれる飲み物を持参していただいたり、夜間は水筒を準備し水分補給に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し一人ひとりの口腔内に応じた口腔ケア用品を使用している。状態に応じてスタッフが仕上げし、異常がないか確認を行っている。週1回の訪問歯科診療にて医師に相談したり、口腔内の清掃について歯科衛生士より指導を受け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握することで、個々の時間に合わせた声掛けや誘導を行い排泄習慣の維持と自立に向けた支援を行っている。	昼・夜の排泄状態によりチェックし、時間やしぐさを察しながらトイレに誘導している。排泄の失敗への不安に自分からリハビリパンツを使用される等希望も組み入れ、下着や排泄用品を検討したり、昼夜で使い分けている。又、安全性からポータブルトイレを利用し、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき、排便時間やパターンを把握し便秘にならないよう下剤の調整や腹部マッサージ等を優先して行い、一人ひとりの排泄習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者個々の希望に沿って時間の調整や同性介助を行い、その日の体調を伺いながら実施している。又、身体機能に応じた浴槽の選択、福祉用具の使用を行い、安心して入浴していただけるよう支援している。	入居者の状態や希望(足が痛いので機械浴に入りたい等)に合わせて普通浴や機械浴で対応している。又、時間帯の希望や同性介助等個々に合わせ支援し、拒否に対しては誘い方を工夫したり、清拭等で清潔保持に努めている。ゆず湯の支援は見当識として生かされ、入浴剤等を取り入れ楽しみの支援に繋がっていきたいとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調に合わせて居室での休息を促したり、リビングにソファベットを設置し安心してくつろげるように努めている。夜間は、入居者個々の希望に合わせて、照明や室温を調整し、寒がりな方には湯たんぽ、保温性のソックス等使用し安眠できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに薬が処方された時には、薬の作用や副作用について表示、申し送りノートにてスタッフ全員で把握し観察を行い、変化があった時には、すぐに対応できるよう主治医及び調剤薬局との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、身体機能に考慮し、家事仕事など役割を持ちスタッフが感謝の言葉をかけることで自分の存在を認められ充実した日々を過ごしていただけるよう支援している。一番楽しみとされている食についての行事など季節ごとに取り入れ喜んでいただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望や季節を感じることを目的とした行事を計画し、ご家族もお誘いしながら実施している。又、個々の要望で思い出の場所への外出も実施している。家族への働きかけも行い、協力も得ながら自宅へ帰られたり、買い物や行きつけの美容室へ外出したりされている。	入居者の体調や希望に合わせて、ホーム周辺の散歩や中庭の花の手入れ等戸外での生活を支援している。又、つつじや紅葉見物等季節を感じる外出や、ブドウ狩りや植木市には家族の参加も得られ、今年度はイルミネーション見物で初めての夜間外出を支援している。その他にも地域行事(どんどや・敬老会等)や法人行事に参加したり、買い物の希望等に応じており、家族にも協力を依頼しながら、本人の希望に沿った外出が支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力や希望に応じて所持していただき、自己管理が難しい方は貴重品入れに鍵をかけたリ、おこづかい帳をつけて金銭管理の支援を行っている。又、要望に応じて買い物へ出かけたり、楽しみやお金を使うことへの支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には、知人やご家族に連絡されスタッフが電話の取り次ぎ等を行っている。知人からの絵手紙や年賀状のやり取りの支援も行っている。年賀状は、スタッフと文面を相談しながら作成し自筆できる方には書いていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾り物や花などを飾り、明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。本人愛用のクッションやひざ掛けなどを使用し、くつろげる環境、居場所づくりに心掛けている。音楽療法として、懐かしい音楽を流すことで精神安定に繋げられるよう支援している。	中庭を挟んだ各ユニットには雛飾りが置かれたり、入居者の活けた花が季節感を醸し出し、入居者に合わせテーブル配置や、ソファにはひざ掛けやクッションを置き寛ぎの場所が作られている。入居者作品の貼り絵や書初めも雰囲気づくりの一つとなり、自然に囲まれた静かな環境の中、バリアフリーが行き届き清掃や温湿度管理で快適な場となっており、職員の笑顔もホームの環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性や相性に配慮しながら、リビング内で過ごされる際には、孤立することなく安心してゆっくり過ごしていただけるよう支援している。又、同じ趣味を楽しまれる者同士が、それぞれに過ごせる空間づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた住まいでの家具類、愛用の物など取り入れながら、自分の住まいと思ってもらえるよう家族の協力も得ながら居心地よく過ごせる空間づくりを行っている。居室には、季節の花や植物、家族の写真なども飾られている。	居室前には家族や職員によって揃えられた暖簾が掛けられ、職員手作りの郵便ポスト等入居者に合わせたアイデアが自分の部屋が目印ともなっている。ソファやテレビ・冷蔵庫など思い思いの品物が持ち込まれ、ベッドは本人が使いやすい位置としたり、動線に合わせた場所に家具を置く等、家族と一緒にレイアウトがされ、植木市で購入した鉢植えを置いたり、遺影や家族写真を飾る等個々に合わせた部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、排泄後のコール使用についてなど、わかりやすく説明文を表示している。各所手すりが設置され、全フロアーバリアフリーとなっており車椅子や歩行器でも安全に移動でき、自立と安全性に配慮した環境づくりに努めている。		